

# 国語教科書を読む

平成 25 年 12 月 7 日（土）～平成 26 年 2 月 20 日（木）

誰しも学んだ国語の授業。教科書の作品にはっと胸を打たれた経験がある方も多いのではないのでしょうか。年明け 2 月まで、当館所蔵の小・中学校国語教科書を展示します。

## 国語教科書の調べ方

「あの時読んだあの作品、タイトルや内容がうろ覚えだが、もう一度読みたい」「作品名はわかるが、いつどこで読んだかわからない」「自分が小学生・中学生の時に使っていた教科書が見たい」時にはどうすればよいのでしょうか。

まず、自分の使っていた教科書が「何年」の「何年生」の教科書で、「出版社はどこなのか」の特定が必要です。名古屋市の場合、該当年度の「教育要覧」を調べることで出版社を特定できます。

特定できたら、所蔵機関を調べます。愛知県内では鶴舞中央図書館の他、名古屋市教育センターの図書館や愛知県総合教育センターの図書資料室、大学図書館等に所蔵があります。原則館外への貸出はできないので、直接訪問することになります。

また、掲載作品は一般の書籍として刊行されている可能性があります。教科書そのものではなく作品が見たい場合は、一般の書籍を探すのも手です。

### 役に立つサイト

★国立国会図書館リサーチナビ「教科書」

[http://rna.nsl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-102022.php](http://rna.nsl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-102022.php)

★国立国会図書館リサーチナビ「教科書の掲載作品を調べる」

[http://rna.nsl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-102275.php](http://rna.nsl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-102275.php)

教科書の所蔵機関や参考文献、掲載作品の調べ方がわかります。

★東書文庫

<http://www.tosho-bunko.jp/search/>

東書文庫所蔵の教科書を調べることができます。戦後の検定教科書に関しては、目次の作品や著者からも検索できます。

★教科書目録データベース

<http://mokuokudb.textbook-rc.or.jp/kyoka/>

公益財団法人教科書研究センター提供。昭和 22(1947)年以降の教科書約 32800 冊について、教科・書名・使用期間等の情報が検索できます。ただし、掲載作品を調べることはできません。

## ☞役に立つ書籍

★教科書掲載作品：読んでおきたい名著案内. 小・中学校編 日外アソシエーツ 2008

★教科書掲載作品 13000：読んでおきたい名著案内 日外アソシエーツ 2008

作品名から教科書を検索できます。2冊とも当館に所蔵があります。

なお、高校については各学校によって採用されている教科書が異なるため、インターネットや書籍では出版社の特定が困難です。通っていた高校に問い合わせてもわからない場合は、「何年」の「何年生」まで絞り込み、その時期に使用されていた国語教科書を一冊ずつ見ていくことになります。

## 実際に見るには

当館には以下の国語教科書を所蔵しています。書庫にありますので閲覧希望の際は2階カウンターまでお申し出ください（館外貸出は不可）。

☞小学校の国語教科書 → 昭和58年度版～（学校図書のみ昭和49年度版～あり）

☞中学校の国語教科書 → 昭和59年度版～

☞高校の国語教科書 → 平成のものが中心です。

当館所蔵範囲以前の教科書については、

☞小・中学校の国語教科書 → 名古屋市教育センター図書室（Tel:052-683-6420）に所蔵があります（S28～）。貸出・複写はできません。

☞高校の国語教科書 → 愛知県総合教育センター図書資料室（Tel:0561-38-9513）に所蔵があります（S27～）。貸出・閲覧・複写に制限があります（貸出・複写は不可、閲覧は教育的利用の目的に限る）。

所蔵範囲内であっても、全ての出版社の教科書がある訳ではありません。詳細は所蔵機関にお問い合わせください。

## 展示解説

### 名古屋市採用の国語教科書一覧（戦後）

#### 小学校

年度	採択された出版社
S25(1950)	文部省。2年のみ「こんごの本」（こくごの本の間違いか）
S26(1951)	日本書籍
S27(1952)	1年のみ光村。2～6年は日本書籍
S28(1953)～S29(1954)	日本書籍
S30(1955)～63(1988)	学校図書
H1(1989)～H22(2010)	教育出版
H23(2011)～	光村図書

#### 中学校

年度	採択された出版社
S25(1950)	文部省
S26(1951)	三省堂
S27(1952)～S35(1960)	光村図書
S36(1961)	二葉
S37(1962)～40(1965)	三省堂
S41(1966)～S43(1968)	学校図書
S44(1969)～S51(1976)	教育出版
S52(1977)～S62(1987)	光村図書
S63(1988)～	教育出版

※当館所蔵の「名古屋市教育要覧」により調査しました。

### 昭和46年度版（昭和43年改訂）学習指導要領に基づく国語教科書

・「技能・能力を中核とする」「国語課教育と学校全体の国語教育とを区別する」「母国語の自覚と尊重」「国民的課題・題材の教化」「言語機能的立場の導入」が謳われています。小学校の国語学習総時間は1603時間でした。

・国語科教育の目標・内容があまりに広範だったものを反省し、技能・能力面にしぼりました。

・ローマ字教育が縮小されました。

・領域構成が「A聞くこと、話すこと」「B読むこと」「C書くこと」になりました。「言葉に関する事項」がそれぞれの領域の（2）になりました。

### 昭和55年度版（昭和52年改訂）学習指導要領に基づく国語教科書

・「人間性豊かな児童生徒を育てること」「ゆとりのあるしかも充実した学校生活を送れるようにすること」「国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視するとともに児童生

徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること」が謳われています。小学校の国語学習総時間は1532時間でした。

・領域構成が「作文」と「話すこと」を中心とする「A表現」と「読むこと」と「聞くこと」の領域が統合されて「B理解」の2領域になりました。それぞれの領域の(2)であった「言葉に関する事項」が「言語事項」となり、より一層系統的に学習できるよう改訂されました。

### 平成4年度版(平成元年改訂)学習指導要領に基づく国語教科書

・「個性重視の原則」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」が原則とされました。小学校の国語学習総時間は1601時間でした。

・前回同様「言語の教育としての立場を一層重視」し、2領域1事項が継続されました。

・「表現」領域では「話すこと」について指導項目の追加があり、作文の時間が増えました。「理解」領域では「聞くこと」を重視し、関連した指導事項が追加されました。

・学年別漢字配当表が30年ぶりに見直され、小学校での学習漢字が996字から1006字になりました。

### 平成14年度版(平成10年改訂)学習指導要領に基づく国語教科書

・完全学校週5日制に対応。「ゆとり」の中で「特色ある」教育を展開する、と謳われています。小学校の国語学習総時間は1377時間でした。

・「日常生活に必要な話す・聞く、書く、読むなどの基礎的な内容を繰り返し学習し確実に言語能力を育成することを重視」し、改善が図られました。

・領域構成が「A表現」「B理解」「言語事項」の2領域1事項から、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」「言語事項」の3領域1事項になりました。

・学習指導要領において目標、内容及び言語活動例が1・2年、3・4年、5・6年と2学年ずつにまとめて示されました。

### 平成23年度版(平成20年改訂)学習指導要領に基づく国語教科書

・「確かな学力を確立するために必要な授業時間数の確保」が謳われ、小学校の国語学習総時間は1461時間になりました。

・「生きる力」を育む教育を重視。経済協力開発機構(OECD)生徒の学習到達度調査(PISA)から読解力や記述式の問題に課題が見出され、対応できるような改善が求められました。

・教科の目標は変更なし。言語活動の充実を重視し、「言語事項」が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改められました。

### 教科書用特定図書等

教科書用特定図書等とは、視覚障害のある児童・生徒の学習用に教科書を拡大複製した図書、点字教科書、その他障害のある児童・生徒の学習用に作成された教科書代替教材のことをいいます。

平成20年に「障害のある児童及び生徒のための教科書用特定図書等の普及促進等に関する

る法律」が成立・施行され、教科書用特定図書等の無償給与が定められ、教科書発行者に教科書用特定図書等発行の努力義務が課せられました。平成25年度現在、小中学校においては全ての教科書が拡大教科書としても発行されています。

## おおきなかぶ

今やどの小学校国語教科書にも載っている「おおきなかぶ」。初めて小学校教科書に載ったのは昭和30年版の学校図書の「おおきなかぶら」でした。その後、昭和55年度版で全教科書会社の国語に採用されました。

現在採用されている五社（学校図書・教育出版・三省堂・東京書籍・光村図書）の教科書で「おおきなかぶ」を比較してみましょう。光村以外の四社では内田莉莎子訳を採用しています。ただし、同じ内田訳でも学図だけ「かぶをうえました」で、他の三社は「かぶのたねをまきました」と書き出しが違います。原作に忠実なのは「うえました」で、福音館の絵本でも「うえました」となっている。「まきました」は教室の反響などを考慮し、教科書向けに手直ししたものなのです。

現在名古屋市で採用されている光村の「おおきなかぶ」は、訳が西郷竹彦、挿絵は昭和55年度版までは佐藤忠良でしたが、58年度版からはロシアの画家ローシンに代わります。内田訳との大きな違いは最後の「かぶ」をひっぱる場面。内田訳では「ねずみがねこをひっぱって……」の部分が、西郷訳では「かぶをおじいさんがひっぱって……」の順になっています。

原作に忠実なのは内田訳ですが、「かぶ」を中心にする方が自然で、最後に小さなねずみが引き「かぶ」が抜ける方が効果的と西郷は説明しています。

## 参考文献

- 小学校学習指導要領の展開 [第2] 改訂版 明治図書出版 1968  
小学校新学習指導要領の解説と展開 [第2] 教育出版 1977  
新訂 小学校新学習指導要領の解説と展開 国語編 教育出版 1989  
小学校国語教科書の戦後45年 データベースで検索した教材の変遷 教科書研究センター / [編] 教科書研究センター 1992  
小学校学習指導要領解説国語編 平成11年5月 [文部省 / 編] 東洋館出版社 2004  
小学校新学習指導要領の展開 国語科編 新しい国語教育を創造する会 / 編著 明治図書出版 2008  
教科書制度の概要 [2013年] 文部科学省初等中等教育局教科書課 2013  
[名古屋市]教育要覧 名古屋市教育委員会 1950 - 2013

名古屋市鶴舞中央図書館 2013年12月発行

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。